

熊本県立荒尾支援学校進路便り No. 64

わーく&らifu

令和3年度 第3号 7月20日 発行

■CONTENTS■

【特集】高等部一般学級「現場実習」から見えること（表面）
夏休みの過ごし方に「はたらく」のアイデアを（裏面）

【特集】高等部一般学級「現場実習」から見えること

高等部一般学級では、2・3年生の第1期「現場実習※」が終了しました。コロナ禍で、実習のみならず外部からの訪問もできない施設もあり、希望とは違う実習先になった生徒もいます。昨年度は2年生は中止、3年生は期間を短縮して一部実施となったことを考えると、有り難いことです。実習受け入れ側の皆様のご理解、生徒自身の感染防止のための努力、保護者の皆様のご支援の賜だと感じます。

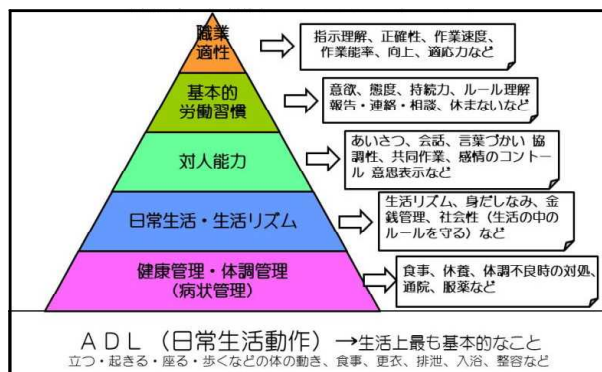
今回の「わーく&らifu」では、第1期「現場実習」を終えた生徒たちの反省から見える、「育てておきたい必要な力」をご紹介します。

※「現場実習」とは、約2週間、学校以外の福祉施設や会社などで実際の生活や労働を体験する学習のことで進路を選ぶために欠くことのできない重要な学習です。

■「はたらく」の土台となる力

人が「はたらく」ためには、その基礎となる土台（右図参照）が重要であることが分かっており、生活するうえで最も基本的なADL（日常生活動作）の習得、健康で整った生活リズムの習慣化、他者との関係の中で必要とされる対人能力などの土台ができてはじめて「はたらく」が成立します。

「現場実習」は、将来の「はたらく（活動する）」生活を体験する学習です。ですから、「現場実習」の個人目標はかならず「仕事面」「コミュニケーション面」「生活面」の三領域で設定し、上で述べた基礎部分の出来具合を確認し、実習後はそれぞれの成果と課題を踏まえた「今後の目標」を設定します。



■うまくいかなかった経験こそ重要

「現場実習」では必ずしもすべてがうまくいくわけではありませんが、うまくいかなかった経験や、失敗やミスをした経験からこそ、進路希望に向けて努力すべきことが分かります。

「現場実習」を通じて、高等部2・3年生たちがたてたこれからの目標は、下の表のとおりです。

お子様が小さいご家庭から見ますと、高校卒業後の生活はずいぶん先の話のようにも思えますが「将来必要になることは、今から必要なこと。」と言われます。高校生たちの体験を通じた反省と目標は、小学生・中学生のご家庭での子育てや塾に活かすことのできる貴重なヒントと言えます。どうぞご覧ください。

■高校生が「現場実習」後にたてた目標

仕事面	第1位 時間を意識する（時計見る習慣） 第2位 いろいろな経験をしておく 指示通りにする（指示に従う） 報告や質問をする その他 急ぐ経験をする 難しくても投げ出さない（終わりまでやる。つづける）	
生活面	第1位 規則正しい生活をする（食事、睡眠、スマホの利用時間） 第2位 身だしなみを整える（髪の毛の長さなど） 第3位 体調管理をする （汗を拭く、水分補給をする、トイレに行くなどの習慣化） その他 自分で起きる（アラームなどの使用） 忘れ物をしない 体力をつける 気持ちの切り替えができる 自分の体調を伝えられる	
コミュニケーション面	第1位 あいさつ・返事をする 第2位 困ったときの質問やアピールをする 何らかの方法で意志を伝える （ことば以外でもOK→カードを使う、サインを使う） その他 表情や声のトーンに気をつける（笑顔、明るい声） 会話をする ていねいな言葉遣いをする 素直に返事をする 顔を見て話す いろいろな人と関わる経験を積む 相手の気持ちを考えて話す	

【特集】夏休みの過ごし方に「はたらく」のアイデアを

明日から夏休み。家庭や地域で過ごす40日余りがスタートです。

夏休み直前の進路だよりでは毎年、恒例の長期休業前特集記事をお届けします。「はたらく生活の準備は、まず家庭生活の充実から」と言われます。家族との時間が増える夏休みは、①リズムある生活、②メリハリのある過ごし方、③目的のもちかた(もたせかた)などのアイデア次第で、ぐっと力をつけることができる時期かもしれません。この夏休みは「はたらく」につながるアイデアを取り入れて過ごしてみませんか？

①リズムある生活～まずは夏休みのスケジュール・目標づくりからスタート！～

中学生以上になれば、お子様も交えた話し合いで生活スケジュールや行動目標をつくることは、本校が大切にしている「きめる力」を育むものと思います。起床時間、運動の時間、学習や手伝いの時間、楽しみの時間（特にゲームやスマホの時間）、食事の時間、入浴の時間、就寝時間など、ひとつひとつ具体的に決めて過ごしましょう。



②メリハリのある過ごし方とは？ ～家族の「いつもどおり」を一緒に体験～

一日のスケジュールを決めることは「メリハリ」のある生活実現の鍵です。ただしここで「何か特別なことをしなければ。」と思うと、お互いとても疲れてしまいますね。大切なのは、「特別なこと」ではなく、ご家族にとっては「いつもどおり」だけれど、学校があるときはお子様が参加できない活動（家事）を体験（お手伝い）させることです。

ここでのポイントは「家族と一緒にやること」。家族と同じ時間に起床して、一連の家事（ゴミ出し、新聞を取る、朝ご飯の支度、片付け、洗い物、掃除・洗濯等々）と一緒に取り組み、ひとつひとつをていねいに教えましょう。家族が様々な受け持っている「家事」を一緒にやる経験（お手伝い）は、「はたらく」につながるとも分かりやすいものです。



③目的のもちかた(もたせかた)

家事・手伝いに取り組む目的は、もちろん「できることを増やす」こともあります。それ以上に「人から何かを教えてもらう」「家族の役に立つ(喜んでもらう)経験を増やす」ことにあります。

「人から何かを教えてもらう」ことの意義

「人から何かを教えてもらう」にはかならず、教えてくれ



る相手の存在があります。家事（お手伝い）と一緒にやる経験は、その相手に「注目すること」、相手の「まねをすること」「指示に従うこと」「ペースにあわせること」「注意を受け入れること」等が含まれるため、学習の基礎と言えます。

「家族の役に立つ(喜んでもらう)」経験を増やす意義

家事（お手伝い）に取り組む最大の目的は、お子様を「ほめる」（お子様にとっては、認めほめられる）回数を増やすことにあります。「ほめられる」ことは、肯定的な他者評価にあたります。この肯定的な他者評価こそが、自己有用感を高め、正しく自己評価のできる子どもを育てるポイントです。

「ありがとう！たすかったよ。」「きれいになって嬉しい。」など、家族の一員としての自分を意識できるように、感謝の気持ちをお子さんにわかる伝え方で伝えましょう。

また、「家族の役に立つ」経験と、その対価としての「ごほうび」の関係づけも夏休みに取り組みやすいアイデアのひとつです。

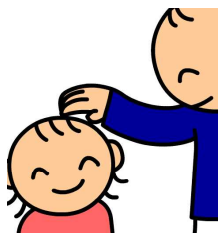
このごほうびのあげ方にも、お子さんの実態に応じて工夫ができます。シールをためる方法（トークンシステム）、お小遣い日（給料日）を決める方法等々でモチベーションを高めましょう。

「長い目で」楽しみながら取り組みましょう

家庭での責任ある役割（家事）を果たすこと。また、そのことでほめられ、家族のために役立つことの経験は、我々が考えるより大きな意味があります。

なぜなら、「はたらく」の土台は右図のような基礎が必要だからです。

しかし焦ることはありません。大切なのは「長い目で見ること」。急な成果を求めるのではなく、気長に、親子で取り組んでみてください。



お手伝いから始まる「はたらく」の土台



□■編集後記□■

熊本県の新型コロナウイルスリスクレベルは3段階。あまり身近に感じる数字ではないかもしれませんが、実はリスクレベルやワクチン接種率を「現場実習」受け入れの判断基準と定める施設もあります。これから人流が増える季節がやってきます。私たちは今までどおりの感染対策を徹底するしかありません。そのことがひいては、本校生徒の「進路」決定につながることを知しましょう。（文責：谷口）